



国際交流のひろば

vol.11 今年も友好姉妹都市フィンランド・カラヨキ市から訪問団が来ました。

カラヨキ市との相互派遣交流事業では、これまで約300人の中高生がお互いの国を訪問しています。

15回目となる今年は、10月15日から22日まで、カラヨキ市から引率2人、高校生2人、中学生8人の訪問団が出雲市を訪れました。子どもたちは、ホストファミリー宅等へ滞在し、中学校や高校

に通って一緒に授業をうけたり、部活動に参加したり、出雲のさまざまな文化に触れることができました。

みなさんは、「出雲は夏のような」「山があつてすばらしい」「みんな親切で驚いた」「見たこともない虫がいる」「食べ物がおいしい」「納豆だけは苦手」など、自然環境や文化の違いに驚きながらも交流を深めていました。

こうした活動は、今後ますます国際化が進む中で、多様な国々の歴史や文化の違いを理解し、国際感覚を身に付けていくうえで、とても重要なことだと考えています。



神楽の衣装を着て

出雲北陵中学校書道部との交流

おたずね／国際交流室 ☎21-6576

となりの

バコトツキー

放鳥トキの状況について

第20回



飼育下で繁殖したトキを訓練し、野生下に放つ「放鳥」は、2008年に始まりました。これまでに215羽のトキが新潟県佐渡島で放鳥されました。その中には出雲生まれのトキも21羽含まれています。

2012年には野生下で36年ぶりとなるヒナが確認され、そのトキが繁殖可能となった

2014年には野生生まれのトキと出雲生まれ等の放鳥トキとの間に野生3世となるトキも生まれました。来年の繁殖期には、まだ確認されていない野生生まれ同士のトキのヒナの誕生が期待されます。

なお、放鳥されたトキの中には、本州へ飛んできたトキもあり、今年4月には石川県能登

半島において佐渡島で放鳥したトキと、佐渡島で繁殖したトキが2羽同時に確認されました。

また、今年9月には初めて出雲生まれのトキの死体が発見されました。左の表のように行方不明となっているトキも多くいます。

次回は、生きものを育む農法について紹介します。

放鳥トキの個体数(2015.10.26現在)

	全体	うち出雲生まれ
放鳥数	215	21
生存数	117	13
死亡確認	16	2
行方不明・死亡扱い	79	5
保護・収容	3	1

(単位:羽)

おたずね／出雲市
トキ分散飼育センター ☎201350